

## 第二章「まちの誇り」をつむぐ

# 開町100年の節目に実現! 《カルビーポテトチップス発祥の地》 復刻販売メモリアル

2018年は小清水町開町百年のメモリアルイヤー。

さまざまな催しが企画されたが、なかでも町の歩みに新たな一步を刻んだ出来事が「復刻版カルビーポテトチップスうすしお味」の販売であった。

製造元であるカルビー株式会社と販売を一手に担った株式会社セコマ、

そして小清水町の「三人四脚」で成し遂げたビッグプロジェクト。

関係者にお話をうかがった。



**Birthplace of Calbee potato chips: Revived production in commemoration**

As a special project commemorating the 100th anniversary of Koshimizu Town in 2018, Calbee potato chips (slightly salty flavor) were produced in the town. Koshimizu had produced potato chips since 1975 (production already ended). The potato chips for the special project were sold exclusively by Seicomart, with 72,000 packages sold out in less than a month. After the production and sales, Koshimizu was officially branded as the birthplace of Calbee potato chips.

当初は大根やごぼうの作業を手伝い、春になつてから本格的に酪農ヘルパーの仕事をスタート。現在は作品制作に打ち込みつつ、「週に3日来ていいよ」と言ってくださった原田農場さんのご厚意に甘えて」通つてているという。

当初は大根やごぼうの作業を手伝い、春になつてから本格的に酪農ヘルパーの仕事をスタート。現在は作品制作に打ち込みつつ、「週に3日来ていいよ」と言ってくださった原田農場さんのご厚意に甘えて」通つてているという。

和紙で細部を表現  
ドイツで初個展

「牛を可能なかぎり原寸で表現したい」と試みる富田さんが、2018年に縦182cm×横273cmの大作『全身図』を作つた際も、合計6枚の雁皮紙を使用した。「大きいからかわいい」牛の魅力を伝えようと、繊細かつダイナミックな表現を探つてゐる。

「モデルとしての牛は垂れているところや角ばつているところ、いろんな形が混ざつて描くのが難しい。でも版画の二刀二刀のシャープな線が牛の毛っぽくて、牛を表現するのに適している。筆やボールペンにはない相性の良さを感じています」

北海道で牛を世話しながら牛を彫るという圧倒的なリアリティーと高い完成度を誇る

作風は、まさにモノ(牛)・コト(版画)・ヒト(酪農経験を持つ作家)が織りなす「富田オリジナル」。展覧会のたびにメディアに取り上げられ、新たな仕事や個展の依頼が数珠つなぎ

酪農畜産の研究機関「ジェネティクス北海道」機関誌「sire」の表紙も長年手がけている。表紙に使われた『鼻息』(水彩・2012)



んです」。だがそのままでは表面が波打つため、刷つた雁皮紙を麻紙を貼つた木製パネルに貼り付ける。「書道などでいう裏打ちの手法」を応用している。

「牛を可能なかぎり原寸で表現したい」と試みる富田さん

が、2018年に縦182cm×横273cmの大作『全身図』を作つた際も、合計6枚の雁皮紙を使用した。「大きいからかわいい」牛の魅力を伝えようと、繊細かつダイナミックな表現を探つてゐる。

「モデルとしての牛は垂れて

いるところや角ばつているところ、いろんな形が混ざつて描くのが難しい。でも版画の二刀二刀のシャープな線が牛の毛っぽくて、牛を表現するのに適している。筆やボールペンにはない相性の良さを感じています」

北海道で牛を世話しながら牛を彫るという圧倒的なリアリ

リティーと高い完成度を誇る作風は、まさにモノ(牛)・コト(版画)・ヒト(酪農経験を持つ作家)が織りなす「富田オリジナル」。展覧会のたびにメディアに取り上げられ、新たな仕事や個展の依頼が数珠つなぎ

となり、今日までやつてきた。2019年11月にはドイツでも初の個展を開催。美術館や博物館をたくさん回り、「作品の中に乳牛の姿を見かけては人類と牛の長いつきあいについて思いをめぐらせた」という。

小清水町に腰を落ち着けて

ある。

「小清水は酪農と畑作の両方

をやつている方も多く、牛の糞を堆肥にして作物を育て、

再び牛の飼料に還元する循環型農業が浸透しています。

牛の寝わらになる麦稈(ばかん)も、麦を育てている小

アートの豊かな響き合いで、これからも大勢の人々の心を

とらえていくに違いない。

清水は町内でもかなえている

みたい。これつて当たり前の

ようでいて、実はとても「豊か」なことですよね」

寝心地のいい寝わらでたつぱり休んでいるからだろうか。富田さんが彫つた牛たちはどれも生命力に溢れてい

る。小清水町で育まれた命と

アートの豊かな響き合いで、これからも大勢の人々の心を

とらえていくに違いない。

清水は町内でもかなえている

みたい。これつて当たり前の

ようでいて、実はとても「豊

か」なことですよね」



富田美穂(とみた・みほ)  
1979年東京生まれ。2004年に武蔵野美術大学造形学部油絵学科版画コース卒業。2007年から小清水町在住。第20回岡本太郎現代芸術賞入選、第28回道銀芸術文化奨励賞受賞。常設展示は中標津町の佐伯農場荒川版画美術館。